

プロジェクト名	実際の小学校外国語活動の観察と記述		
プロジェクト期間	平成 23 年度		
申請代表者 (所属講座等)	ウィリアム ラトウエル クイント オオガ・ ボールトウィン (英語教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法および 取組実績の概要	<p>平成 23 年度から全国に必修化された小学校外国語活動の実践に関する調査を行います。調査事項は以下の通りです。現在 5・6 年の担任の先生方や ALT が英語ノート、または自作教材をどのように使っているを確かめること。現在の 5・6 年生の児童は新しく導入された外国語活動に対してどのような反応を示しているか調べること。将来の小学校の外国語活動の教員のため、効果的な活動、教材、教員の行動を記述すること。</p> <p>目標として、この研究の結果を教員養成のため、外国語活動の指導方法、学級経営のシステムを検討するために活用する。将来の外国語活動の教員のため、より効率的な指導が出来るように、または日本的な外国語活動のあり方の理論を作るように、実際の小学校外国語活動を観察、記述する。</p> <p>この研究での具体的な調査内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現在小学校の担任の先生や ALT はどのような活動を使っているのか 2) 担任の先生と ALT はどのような役割を果たしているか 3) 現在の 5・6 年生の児童は外国語活動に対して、どのような反応をしているのか 4) 教員や児童が授業中にどのような英語を使っているのか 5) 現在の担任の先生に対して、教員養成のためにどのような能力が必要か <p>調査研究方法：</p> <p>宗像市立小学校において、研究者はティームティーチング、または担任一人の外国語活動を観察し、教員の教材や授業活動の創造性、児童の外国語コミュニケーションに対する興味や動機、教員や児童の外国語コミュニケーション能力、教員の外国語活動の学級経営を質的に調査する。</p> <p>調査研究時期：</p> <p>平成 23 年度 8 月から平成 24 年度の 3 月までのうち、参加するクラスを各二回観察する。</p> <p>研究計画：</p> <p>平成 23 年 8 月：</p> <p>各対象小学校に来訪し、校長や教員と挨拶し、研究を説明する。教員の同意が得られれば、観察する日程を決定する。</p>		

	<p>平成 23 年 9～12 月： 参加する小学校の教員の一回目の授業を観察する (出来れば、担任一人、ティームティーチング両方とも)</p> <p>平成 24 年 1～3 月： 参加する小学校の教員の一回、二回目の授業を観察する (出来れば、担任一人、ティームティーチング両方とも)</p>		
<p>研究成果の概要</p>	<p>結論として、授業の構成を良くするために、一番教員が調整出来るところは教室の環境と活動や説明の長さだろう。積極的に児童を取組ませるため、教室、特に特別教室の場合、物理的に管理することにより効果的な授業が出来るようになる。</p> <p>授業の取り組みの面では、ALT の影響が少ないが、自然な生の外国語インプットを児童に送っており、授業中に JTE や HRT の国際性も見せることが出来る。JTE と ALT の指導や授業計画や活動の構成もかなり大切な要因であるが、HRT が授業に参加することが、児童の反応に大きく影響する。HRT の英語能力は重要ではなく、外国語活動の授業への興味関心を示すことで、児童がより良く授業に取り組むようになる。更に、HRT が英語の手本よりも、参加する姿勢を見せることで、児童がその態度を見習う。</p>		
<p>外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法について</p>			
<p>外部資金獲得申請 (予定)</p>	<p>科学研究費助成事業</p>	<p>研究成果の公表方法 (予定)</p>	<p>全国語学教育学会</p>